

安倍政権退陣で「原発ゼロ」を実現しよう

「ポスト真実」という聞きなれない言葉が、世界に流布しています。オックスフォード大学が、2016年に注目を集めた言葉として選んだからです。真実に基づかない主張、つまり嘘・偽りを繰り返して人々を扇動し、うねりをつくり出すことを意味します。アメリカ大統領選挙におけるトランプ氏の言動が見本とされます。しかし、嘘・偽りの政治は、日本の安倍晋三首相こそ先駆者です。

「福島原発事故の汚染水は、完全にコントロールされている」。これは、東京オリンピックを誘致するため、安倍首相が3年余り前のIOC総会で世界に発した言葉です。しかし、汚染水は現在もコントロールできず、大量に流され続け、8万人を超える被災者はいまだに避難生活を余儀なくされています。

安倍首相の嘘は挙げればきりがありません。それだけでなく、最近では無責任ぶりも際立っています。福島原発事故に伴う廃炉、賠償、除染費用はこれまで11兆円とされてきましたが、昨年末、21・5兆円に引き上げられたうえ、それを国民につけ回しする方針を打ち出しました。膨大な税金をつぎ込んで破たんした高速増殖炉「もんじゅ」を廃止する一方、新たに高速実証炉の開発に着手することを決め、実現の見込みのない核燃料サイクルにしがみついています。すべては、原発再稼働の推進のためです。

安倍政権は原発を「重要なベースロード電源」とし、将来にわたって推進することを決めています。アベ政治を終わらせない限り、原発再稼働は続きます。「原発利益共同体」は何の責任を取ることもなく、私腹を肥やしていくでしょう。

今年は、『原爆詩集』で知られる峠三吉の生誕100年にあたります。峠は、66年前に発刊したこの詩集で、放射線がもたらす被害の深刻さを見抜き、警告を発しています。今年は、国連で核兵器禁止条約の締結交渉が始まる年でもあります。核兵器が人類史上初めて「違法化」されれば、核兵器廃絶に向けて世界は新しい段階に入ります。安倍政権は核兵器禁止条約に反対しています。このような政権は退陣させましょう。

安倍政権を打倒し、原発も核兵器もない「核なき世界」へ向け、今年こそ大きな一歩を踏み出しましょう。

2017年1月29日 さよなら原発ヒロシマの会総会参加者一同